

〈国語〉「どうぞよろしくのかい」をしよう

学習のねらい(教科)

- ・自己紹介の活動に興味をもつ。
- ・伝えたいことが相手に伝わるようにカードづくりをすることができる。
- ・友達の名前を知り、自分の名前を伝えることができる。

幼児期の育ちを踏まえた工夫

- 文字や言葉の理解に個人差があることを踏まえ、視覚支援とともに丁寧な言葉がけや関わりを大切にしながら、安心して活動に取り組めるようにする。(B③-④)
- 学年やグループなどの活動を取り入れ、親しい友達との関わりを軸に子ども同士の人間関係が広がるようにする。(C③-①)



学習の流れ

| | 学習活動 | 指導上の留意点 | 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿) |
|--------------------------------|--|--|--|
| 導入 | <ul style="list-style-type: none"> ・「どうぞよろしくのかい」(自己紹介)をすることを知る。 ・自分の名前や好きなものの絵をかく。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ジャンボ名刺を1人1枚用意する。 ・ひらがなを学んでいないので、<u>書ける文字だけ書くように伝え、教師が支援する。</u> ・名前の周りに<u>自分の好きなものの絵をかかせる。</u> | 言葉による伝え合い 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚 |
| ともだちは どんなものやどんなことがすきかな。 | | | |
| 展開 | <ul style="list-style-type: none"> ・じゃんけんで勝った人からジャンボ名刺を見せながら自分の名前と好きなものを一つ紹介する。 ・5人以上の友達と行う。 | <ul style="list-style-type: none"> ・自己紹介の仕方の話型を練習できるようにする。 ・「私の名前は、○○です。好きなものは、△△です。どうぞよろしくお願いします。」 ・自分から話しかけられない子どもには、声をかけて、自己紹介ができるようにする。 | 協同性 言葉による伝え合い 豊かな感性と表現 |
| まとめ | <ul style="list-style-type: none"> ・「どうぞよろしくのかい」をした感想を交流する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・名前を覚えた友達がいたら発表させる。 ・一人ひとり好きなものが<u>違うことに気付かせる。</u> ・名前を覚えて、<u>友達と仲良くなるうという気持ちをもたせる。</u> | 協同性 言葉による伝え合い 豊かな感性と表現 |

※その時期にふさわしい発達や学びに合わせた活動や関わりの工夫など

幼児期の育ちや経験を踏まえた接続のポイント

幼児期に子どもたちは、遊びや生活の中で、友達と協力したり一緒に何かをする楽しさを味わってきています。友達がいることの楽しさを知り、小学校で新たな友達との出会いを楽しみにしています。新たに出会った友達のことをよく知りたい、親しくなりたいという気持ちを大切に関わりのきっかけをつくり、友達への興味や関心から人間関係を広げていくことができます。

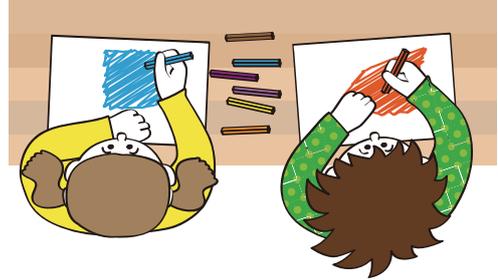
〈図工〉ぞうのエルマーをいろでかざろう

学習のねらい(教科)

- ・「ぞうのエルマー」の読み語りを聞いて物語の面白さを味わう。
- ・自分が考えた色をエルマーにチョコレートぬり(べたぬり)のぬり方でぬる。
- ・友達が色をぬったエルマーを楽しみながら見る。

幼児期の育ちを踏まえた工夫

- 園で経験してきたことなどを十分に認め、子どもが発表する機会をもつ中で、子ども自身が安心して活動に取り組むとともに、自覚的な学びにつながるようにする。(B③-③)
- 環境の違いや個人差が大きいことを踏まえ、一人ひとりの姿をよく見つめながら、子どもたちができることや経験していることを生かした授業を行う。(C③-③)
- 子どもの集中力や理解面から、短く、具体的に話すよう心がける。(1指示1動作で活動できるよう意識する)(B③-⑥)



学習の流れ

| | 学習活動 | 指導上の留意点 | 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿) |
|-----|---|--|-------------------------|
| 導入 | 「ぞうのエルマー」の絵本を聞く。 ・気に入ったところを発表する。 | ・お話が分かるように、ゆっくり読む。 ・絵本の絵が分かるように、電子黒板に映す。 | 言葉による伝え合い |
| 展開 | ・ぞうのエルマーに好きな色をぬる。 ・パスの使い方を知る。 ・エルマーの体のマス1つに1色ぬる。 ・同じ色で2、3マスぬる。 | ・園などでパスを使った経験を出し合い、確認をする。 ・パスの使い方を教える。 ぬり始め、ぬり終わりに、ティッシュでパスの頭をふく。 力を入れてすまなくぬる。(チョコレートぬり) ・1色を隣り合わない2、3マスぬってもよいことを伝える。 ・実際にやって見せることで、安心して取り組めるようにする。 | 豊かな感性と表現 |
| まとめ | ・友達と作品を見せ合いながら、自分の作品の気に入ったところを発表する。 | ・自分の作品や友達の作品を見て、気に入ったところを自由に発表する場を設ける。 | 思考力の芽生え 言葉による伝え合い |

※その時期にふさわしい発達や学びに合わせた活動や関わりの工夫など

幼児期の育ちや経験を踏まえた接続のポイント

幼児期から親しんだパスを使うことで安心して色をぬることができます。安心して表現することを楽しみながら、ぬり方や道具の扱いについて知ることができます。自分の表現だけでなく、友達の作品にも目を向け、感じたことを言葉で表現することにもつなげています。

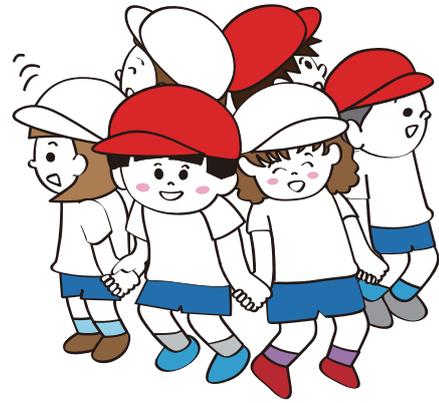
〈体育〉からだほぐしの運動遊び

学習のねらい(教科)

- ・運動遊びの行い方を知り、いろいろな運動遊びを友達と一緒に楽しむ。
- ・楽しかった運動遊びを友達と一緒にしたり、もっと楽しい遊び方を見つけたりする。

幼児期の育ちを踏まえた工夫

- 子どもたちができたことを認めたり、取り組んでいることを励ましたりして、満足感・充実感をもって学習できるように心がける。(B④-③)



学習の流れ

| | 学習活動 | 指導上の留意点 | 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿) |
|-----|---|--|--|
| 導入 | <ul style="list-style-type: none"> ・いっぱい体を動かして遊ぼう。 ・あいさつをする。 ・準備運動をする。 (音楽をかけてもよい) | <ul style="list-style-type: none"> ・指示や説明は短く、<u>児童が遊ぶ時間を十分に確保する。</u> | 健康な心と体 |
| 展開 | <p style="text-align: center;">もっと「たのしい」あそびにするには どうしたらよいだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体ほぐし、運動遊びに取り組む。 忍者手裏剣(教師対児童) むすんでひらいて(友達とペア) もうじゅうがり(ペアからグループ) じゃんけん列車(1人から全員) なべなべそこぬけ(2人から全員) ・友達と一緒に楽しく遊んだり、遊び方や動きのコツをつかんでいたりする児童を全体に紹介する。 ・もう一度、体ほぐしの運動遊びに取り組む。 | <ul style="list-style-type: none"> ・<u>運動の技能ではなく、意欲的に取り組む姿を認め、学習に向かう気持ちを育てていく。</u> ・<u>肯定的な言葉がけを多く行い、必要に応じて補助したり、助言したりする。</u> ・戸惑っている児童には、<u>自分にできそうな、やさしい動きから取り組むよう助言する。</u> | 協同性 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚 自立心 言葉による伝え合い 思考力の芽生え |
| まとめ | <ul style="list-style-type: none"> ・後片付けをする。 ・整理運動をする。 ・学習の振り返りをする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・<u>遊びや動きを工夫して、もっと楽しくできるようにしている児童を称賛する。</u> | 豊かな感性と表現 |

※その時期にふさわしい発達や学びに合わせた活動や関わりの工夫など

幼児期の育ちや経験を踏まえた接続のポイント

幼児期に経験した遊びを通して運動遊び(体育)への意欲につなげていきます。自分でできそうなことから動きを工夫するなど、取り組もうとする過程を認めるようにします。

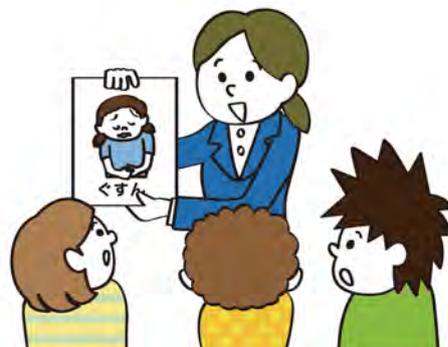
〈特別活動〉ひらがな きもちの「き」

学習のねらい(教科)

- ・人はいろいろな気持ちを感じながら生きていることに気付く。
- ・気持ちの感じ方や表現の仕方が人によって違うことを確かめ合う。
- ・自分の気持ちを素直に表現し、周りの友達に関心をもつ。

幼児期の育ちを踏まえた工夫

- 「ほぐす」「ひらく」「つながる」を心がけ、生活や学習のあらゆる場面で、教師が子どもと子どもをつないでいくことを意識する。(B③-①)
- 日々の活動を通して、自分や友達のよさに気付けるような機会をもち、一人ひとりが自分らしさを発揮しながら、互いに認め合えるようにする。(B④-④)



学習の流れ

| | 学習活動 | 指導上の留意点 | 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿) |
|------------------|--|---|--|
| 導入 | <ul style="list-style-type: none"> ・「あんしんルール」を確認する。(うなずきの「お・へ・そ」、否定しない、最後まで聞く) ※「お〜」「へ〜」「そうなんだ」 | <ul style="list-style-type: none"> ・クラスの友達が不安な気持ちにならないために、『人の話は最後まで聞く、相手の考えを否定しない』ことを伝える。 | 道徳性・規範意識の芽生え |
| いまは どんな きもちだろうか。 | | | |
| 展開 | <ul style="list-style-type: none"> ・「いま、どんなきもち？」のイラストカードを一つずつ見せながら、その絵が表す気持ちを考える。 ・どんな時にイラストのような気持ちになるのかを考える。 ・ペアで話し合う。 | <ul style="list-style-type: none"> ・同じイラストでも、感じる気持ちの言葉は人によって違っていることに<u>気付</u>かせる。 ・自分の気持ちを素直に伝えることの<u>楽しさや開放感を感じさせる</u>。 ・人によってさまざまな気持ちがあることに<u>気付</u>かせる。 | 自立心 協同性 思考力の芽生え 言葉による伝え合い 豊かな感性と表現 |
| まとめ | <ul style="list-style-type: none"> ・魔法のマイクを使って、友達に自分の気持ちを発表する。 ※ヒント集 P65を参照 | <ul style="list-style-type: none"> ・「あんしんルール」を全体で確認し、人によって感じ方や表現スタイルは違うので、自分の思い込みで、人の気持ちを決めつけてはいけな<u>い</u>ことに<u>気付</u>かせる。 | 道徳性・規範意識の芽生え 思考力の芽生え 言葉による伝え合い 豊かな感性と表現 |

※その時期にふさわしい発達や学びに合わせた活動や関わりの工夫など

いま、どんなきもち？
参考：大阪府人権教育
研究協議会



幼児期の育ちや経験を踏まえた接続のポイント

幼児期の子どもたちは、いろいろな友達と一緒に遊ぶ中で、自分の気持ちを伝えたり、相手の気持ちに気付いたりする経験を重ねています。児童期には、人にはさまざまな「気持ち」や「感じ方」があることに気付けるようになっていきます。

〈図工〉ちぎってやぶって だいへんしん

学習のねらい(教科)

- ・破いた紙の見方や置き方、組み合わせ方を工夫するなどして、絵に表す面白さを味わう。
- ・破いた紙の形から思いついたことをもとに、表したいことを考える。
- ・友達の絵を見ながら、表したかったことや表し方の工夫を見つける。

幼児期の育ちを踏まえた工夫

- 幼児期に学んだことを問いかけ、引き出しながら、経験したことを踏まえて、同じ部分や相違点に気付くように言葉をかける。(B④-①)
- 子どもたちができたことを認めたり、取り組んでいることを励ましたりして、満足感・充実感をもって学習できるように心がける。(B④-③)



学習の流れ

| | 学習活動 | 指導上の留意点 | 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿) |
|-----|--|--|---|
| 導入 | 教師が行うモデリングを見てやり方を知る。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ちぎったり、破ったりしてできた紙を見せて子どもたちが思いついたことを、自由に発表させる。 ・組み合わせたり、色をぬったりしてよいことを伝える。 | |
| 展開 | <p>かみをちぎったり やぶったりすると、どんなものにへんしんさせられるかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分が選んだ紙を手でちぎったり、破ったりする。 ・偶然できた形が、<u>何に見えるか考える</u>。 ・台紙の上に置いてちぎったり、破ったりした紙を並べたり組み合わせたりして、形のちがいを試す。 ・表したいことのイメージを広げながら思いついたことを、パスや色鉛筆、紙片などを使って表す。 ・友達の作品を見合いながら、表したいことについて話し合う。 | <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな固さや色、大きさの紙を用意する。 ・偶然できた形が何に見えるかを、<u>考えさせる</u>。 ・つくりたいものをちぎったり、破ったりしてつくるのではないことをおさえる。 ・絵の部分が多くならないように声をかける。 ・イメージがわきにくい子どもたちには、<u>班の友達と一緒に考えてもよいことを伝える</u>。 ・どうしても、イメージがわからない子どもには、個別に声をかける。 | <p>豊かな感性と表現 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚</p> <p>思考力の芽生え 協同性</p> |
| まとめ | <ul style="list-style-type: none"> ・友達の作品を見て、気に入ったところを<u>伝え合う</u>。 ・仕上がった作品を見て好きなところや工夫したところを伝える。 ・友達の<u>作品のよさを見つける</u>。 | <ul style="list-style-type: none"> ・自分の班だけでなく、<u>教室の中を自由に見て回らせる</u>。 ・友達の作品のどこが気に入ったのか、<u>理由を</u>考えさせる。 ・作品について<u>交流させる</u>。 | <p>言葉による伝え合い 思考力の芽生え 豊かな感性と表現</p> |

※その時期にふさわしい発達や学びに合わせた活動や関わりの工夫など

幼児期の育ちや経験を踏まえた接続のポイント

幼児期に表現する楽しさを味わっている子どもは、小学校においても安心して自由に表現することができます。また、友達のイメージしたことに関心をもち、その工夫やよさに気付くことができます。

〈特別活動〉お誕生日会(4月・5月)

学習のねらい(教科)

- ・成長することの期待や喜びを感じることができる。
- ・友達と祝い合うことで、喜びを分かち合い、友達への思いやりの気持ちにつなげる。
- ・全体で集まり、集会をする時のマナーや態度を身に付ける。

幼児期の育ちを踏まえた工夫

- 幼児期の遊びや活動を取り入れ、担任や友達と楽しみながら関わる活動を設定する。(簡単な手遊びや友達づくりにつながるゲームを取り入れる)(C③-②)
- 子どもの集中力や理解面から、短く、具体的に話すよう心がける。(1指示1動作で活動できるよう意識する)(B③-⑥)



学習の流れ

| | 学習活動 | 指導上の留意点 | 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿) |
|------------------------|---|--|--|
| 導入 | <ul style="list-style-type: none"> ・誕生日の人はみんなの前に出て、自己紹介をする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・かけがえのない誕生日を、みんなでお祝いすることの大切さを伝える。 ・誕生日の児童一人ひとりを紹介し、<u>成長の喜びを感じさせる。</u> | 自立心 協同性 道徳性・規範意識の芽生え 言葉による伝え合い |
| おたじょうびかいを ひらこう。 | | | |
| 展開 | <ul style="list-style-type: none"> ・「だれにだっておたんじょうび」を歌う。 ・もうじゅうがりゲームをする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・歌やゲームに不安感をもつ児童に、声をかける。 ・1人で困っている児童がいた場合、友達とつながれるように配慮をする。 ・<u>ルールやマナーを守ることの大切さを伝える。</u> | 自立心 協同性 道徳性・規範意識の芽生え 言葉による伝え合い 豊かな感性と表現 |
| まとめ | <ul style="list-style-type: none"> ・みんなで楽しかったことを話し合う。 | <ul style="list-style-type: none"> ・みんなでお祝いをしたり、ゲームで<u>協力</u>したりすることの楽しさを伝える。 ・今回、誕生日ではなかった児童に<u>次回の期待</u>をもたせる。 | 自立心 協同性 道徳性・規範意識の芽生え 言葉による伝え合い 豊かな感性と表現 |

※その時期にふさわしい発達や学びに合わせた活動や関わりの工夫など

幼児期の育ちや経験を踏まえた接続のポイント

幼児期に誕生会でみんなが集う楽しさや、自分がお祝いしてもらってうれしさを感じています。一緒に楽しい時間を過ごす中で、友達と成長を喜び合ったり、互いに思いやったりしながら、つながりを深めていくことができます。

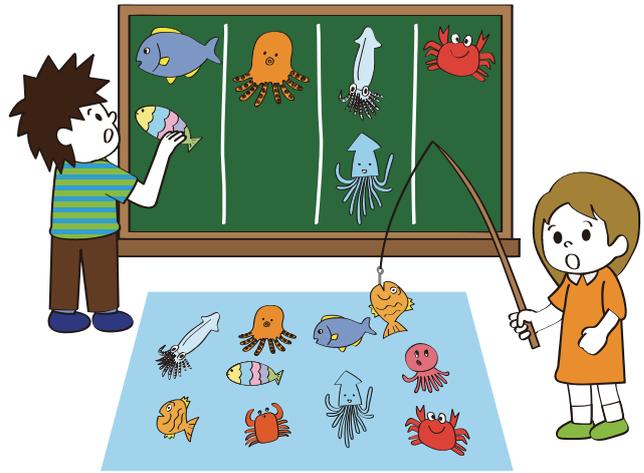
〈算数〉わかりやすくせいりしよう

学習のねらい(教科)

- ものの個数について簡単な絵や図に表す方法を理解し、データの個数を簡単な絵や図に表し、それらの特徴を読み取る力を養う。
- 簡単な絵や図を用いてデータの個数を表したり、捉えたり比べたりしたことを振り返り、日常生活に活用しようとする態度を養う。

幼児期の育ちを踏まえた工夫

- 学習や生活のさまざまな場面で、幼児期やそれまでに培った力を発揮できるような活動を取り入れ、自信をもったり、さらに伸ばしたりできるようにする。(B5-①)
- 友達と一緒に考えたり、協力したりできる活動を取り入れ、できるようになったという喜びを感じ、進んで学習に取り組めるようにする。(B5-②)



学習の流れ

| | 学習活動 | 指導上の留意点 | 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿) |
|-----------------------------------|--|---|--|
| 導入 | ・グループに分かれて魚釣りをを行う。 | ・魚のうち一種は「あたり」であることを伝えるが、種類は後から示す。 ・ <u>班の友達と協力しながら活動すること</u> を伝える。 | 協同性 |
| わかりやすくせいりするには どうしたらよいだろうか。 | | | |
| 展開 | ・「あたり」の魚が何かを知る。 ・釣った魚の中から、どのようにしたら「あたり」の数分かりやすくなるかについてグループで考える。 ・考えを全体で発表する。 | ・グループで相談したことなどをノートに書く方法や話すことで具体的に考えを示すことができるようにする。 ・児童の考えが伝わりやすいように、 <u>電子黒板などを活用し、全体に示すことができるようにする。</u> | 思考力の芽生え 言葉による伝え合い 豊かな感性と表現 |
| まとめ | ・図や絵に整理して、表すと分かりやすくなることをまとめる。 | ・図のめり方や、 <u>見方の説明を具体的に</u> 行う。 ・ <u>図を実際にぬることで、分かりやすさが見えるようにする。</u> | 思考力の芽生え 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚 言葉による伝え合い 豊かな感性と表現 |

※その時期にふさわしい発達や学びに合わせた活動や関わりの工夫など

幼児期の育ちや経験を踏まえた接続のポイント

幼児期に遊びの中で、種類に分けたり、形や色、種類などで分類したりする経験を積み重ねています。ドングリを「大きい」「小さい」で分けたり、似たものを集めたりするなど、子どもたちの生活や遊びの中の経験が学習の中で思考する時のヒントになっています。

1年生ワクワクスタートのヒント



幼稚園・保育所・認定こども園の時の様子を知る



- 要録の内容確認をする
- 書類だけでなく、園所に直接問い合わせる

子どもたちが園所でどのように生活し、どのように過ごしていたのかを知っておくと、1年生の生活(学級づくり)に役立つ

●入学前の引き継ぎメモを確認

●要録を確認

入学児童が在籍していた園所から学校に「要録」が送られる。そこには、子どもたちがそれぞれどのように園所で過ごしてきたのかが記載されている。

施設の種別で「要録」の様式は異なるが、中身(内容)は同じ

幼稚園



幼稚園幼児指導要録

保育所



保育所児童保育要録

認定こども園



幼保連携型認定こども園
園児指導要録

*文部科学省・こども家庭庁のホームページから「様式例」を見ることができる

「様式例」では、健康・人間関係・環境・言葉・表現の5つの項目に3つの視点があり、「指導上参考となる事項」に、子どもの様子が記入されている

入学前の引き継ぎや、要録の内容に追加や補足の情報は、園所に直接問い合わせる

●「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」(10の姿)を一読 (P28参照)

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」(10の姿)はすべての子どもの到達点ではないことを前提にしつつ、一つの指標として一読しておく



場面1「話を聞く」

幼児期ではこんな工夫をしています



- 注目するように工夫する
- 注目してから話をする
- 話を聞くことの楽しさや面白さ、大切さを実感できるようにする

●子どもたちが注目するために

・ハンドサインや合図を活用

例：グーは「静かにしてね」のサイン
いつも決まった合い言葉

・音やリズムを活用

例：手遊び・手拍子のまねっこなど
じゃんけん

歌(幸せなら手をたたこう)

まねっこゲーム(保育者と同じポーズをとったり、同じ体の部分を触るなど)

手をたたく(保育者と同じ数だけ(同じリズムで)手をたたく)

手たたきゲーム(ティッシュが床に落ちるまで手をたたく)

手遊び(茶つぼ、げんこつ山のためきさん、でんでらりゅうば、
あがり目さがり目など)

にらめっこ・なぞなぞ(簡単なものがよい)



●短い言葉でわかりやすく

・「今から大事な話をします」「大事なことを3つ言うよ」など伝えてから話す

●刺激を少なく(周りの音や見えるものを減らす)

●視覚情報の活用

- ・絵や図で示す
- ・絵本・実物写真・掲示など
- ・モニターで大きく映し出す



小学校では…
電子黒板の活用



場面2「時間を意識する・見通しをもつ」

幼児期ではこんな工夫をしています



- 視覚的に分かりやすくする
- 日常の生活のさまざまな場面で意識できるようにする

●時計に印やマークをつける (発達に合わせて少しずつ意識できるように)

例:「長い針がうさぎのマークのところになったら
片付けようね」

「長い針が赤い印のところになったら外へ行こうね」

「長い針が2のところになったら始めます」



●時間を視覚化(タイマーなど)



●スケジュールや手順を表示する

・次に何をするか分かるようスケジュールを表示

＊子どもにとって楽しみなことも入れておく

・すべきこと、準備するものなどを絵や文字にして順に示しておく

→トイレに行く時間の目安を伝える(活動の前にすませておく)

＊聞き逃しても、忘れてしまっても自分で確かめることができる



●同じ流れで活動する

・毎日同じ日課(流れ)にすることで、見通しをもちやすくする

●カレンダーの活用(絵や文字を使って)

・予定を書いて期待につなげる(行事など)

＊個々の誕生日を書くこともある

・大きなカレンダーで視覚的に分かりやすくする

・昨日、今日、明日の概念に慣れるようにする





場面3「もちものの管理」

幼児期ではこんな工夫をしています



- 自分の場所が分かるようにする
- それぞれの発達に合わせて、マークや名前を表示する

●毎日準備するもの(帰る準備など)は、毎日同じ順番で確認する 絵に描いて示しておく

- ・忘れてしまっても自分で確認できる

●探しやすい工夫をしておく(名前+ひと工夫)

- ・グループごとに色分けしておく
(全部の中から探すより、少ない数の中で探す方が探しやすい)
例:ロッカーに、名前+グループカラーなど
- ・必要な場所に必要な物を置いておく
- ・子どもたちの動線を考えて使いやすいように必要な物を置く

●自分の場所や物がわかるように表示

- ・園では自分のマーク(シール)と名前で自分の棚や靴箱が分かるようにしている
- ＊3～4歳児頃は、マークで自分の場所や物を判断する
- ＊5歳児後半は、自分の名前(字の形)を見て分かってくる
- ＊個々の発達に応じた対応が必要





場面4「生活の場を整える」

幼児期ではこんな工夫をしています



- 場所やルールは見えない(できるだけ見える工夫をする)
- 目印はどこからでも見えるかを確認する

●ロッカーや棚の整理

- ・片付ける場所を分かりやすく表示する

保育・幼児教育施設



小学校のロッカー



物の置き方を
写真で表示

●提出物の提出場所を明確にする

- ・提出物を入れるかごに絵や写真を表示しておくことで、自分で分類して入れるようにする
- ・提出物の保管場所を明確にしておく

●その他

- ・保育・幼児教育施設では、着替えや物の整理を自分のロッカーの前の床で行うことがあり、学校では机上で整理をするという違いがある



場面5 「さまざまな場面で…」

幼児期ではこんな工夫をしています



●配慮や環境の工夫をする

●並ぶ場所を視覚でわかりやすく示す

- ・先頭の部分に印(線や足形)をつけておく
- ・床にテープなどで線を引く
- ・ポイントだけ印をつける

学校の体重・身長測定



●個々に時間差が生じる活動で…

個々の時間差が生じる活動や全員が課題を終えるまでの間など、落ち着いて待てるようにするためにも、日頃から環境として用意しておく

- ・ぬり絵、迷路、折り紙、絵本などを用意しておく
- 「みんなが終わるまで、絵本を読んで待っていてね」
- 早くできたことを認めるのではなく、丁寧さを認めていく

●魔法のマイク

手作りマイクで、発表やインタビュー
ちょっと恥ずかしい時もマイクがあれば、
勇気がでたり楽しんで発表できたりする



●靴や服の着脱

- ・園では、床に座って身支度をする事も多い
発達に合わせて少しずつ立ったり、椅子に座ったりして行えるようにしている
- ・小学校では、机上で身支度をしたり、立って靴の着脱を行う



絵本(本)の活用



保育・幼児教育施設でどのように絵本(本)を活用しているのか
 知ること、入学後の活動に生かす

- ①どんな絵本(本)を見ている(読んでいる)か
- ②どんな時に絵本(本)を見ている(読んでいる)か
- ③どんなふうに絵本(本)を見ている(読んでいる)か

- 保育・幼児教育施設では、年齢や発達段階に応じてさまざまな場面で本や絵本を活用している
- 幼児期の終わりまでに育ててほしい姿「言葉による伝え合い」では、

「保育者等や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる」

と記されている

①どんな絵本(本)を、見ている(読んでいる)か

読んでもらう絵本(本)

- 写真や実物がかけられたもの
- 音やリズムのイントネーション、色やデザインを楽しむもの
- 繰り返しの絵や音を楽しむもの
- 単純なストーリーで繰り返しが出てくるもの
※小学校低学年の教科書に使われているお話など
- 物語を楽しむもの(時には絵のないものも)

※絵本(本)は、必ずしもその年齢や時期に決まったものを提供するのではなく、年長児に赤ちゃん絵本や簡単な繰り返しの絵本(本)を提供することもある。

自分で読む(見る)絵本(本)

- 大人に何度も読んでもらうもの
- 絵を見るだけで楽しいもの
- 写真や実物がかけられたもの
- 言葉の繰り返しや音のイントネーションを楽しむもの
- ストーリーや繰り返しの言葉などを覚えているもの
- 見て楽しむもの
- 写真や実物がかけられたもの
- 絵探し、迷路
- 図鑑 など

②どんな時に絵本(本)を見ている(読んでいる)か

読んでもらう絵本(本)

- 豊かな言葉や物語の世界を楽しみたい時に
- 活動前の導入に
- 興味や関心を高めたい(広めたい)時に
- 注目を集めたい時に
- 気持ちを落ち着けたい時に
(動の活動から静の活動へ)
- 活動の合間に

自分で読む(見る)絵本(本)

- 遊びの中で
 - ・友達と一緒に…
 - ・1人で…
- 活動の合間に

③どんなふう(に)絵本(本)を見ている(読んでいる)か

読んでもらう絵本(本)



●1対1で…

乳幼児期の子どもたちは、読み手の近くに集まりそばで見たり聞いたりすることを好むことが多いです。



●半円になって…



●少人数で…



●クラス皆が集まって…



●みんなで前を向いて…

自分で読む(見る)ための環境設定

飼育ケースや
展示物の横に…

※関心をもった時に調べられる



表紙が
見えるように…

※見ることで心が動き、
関心をもつ

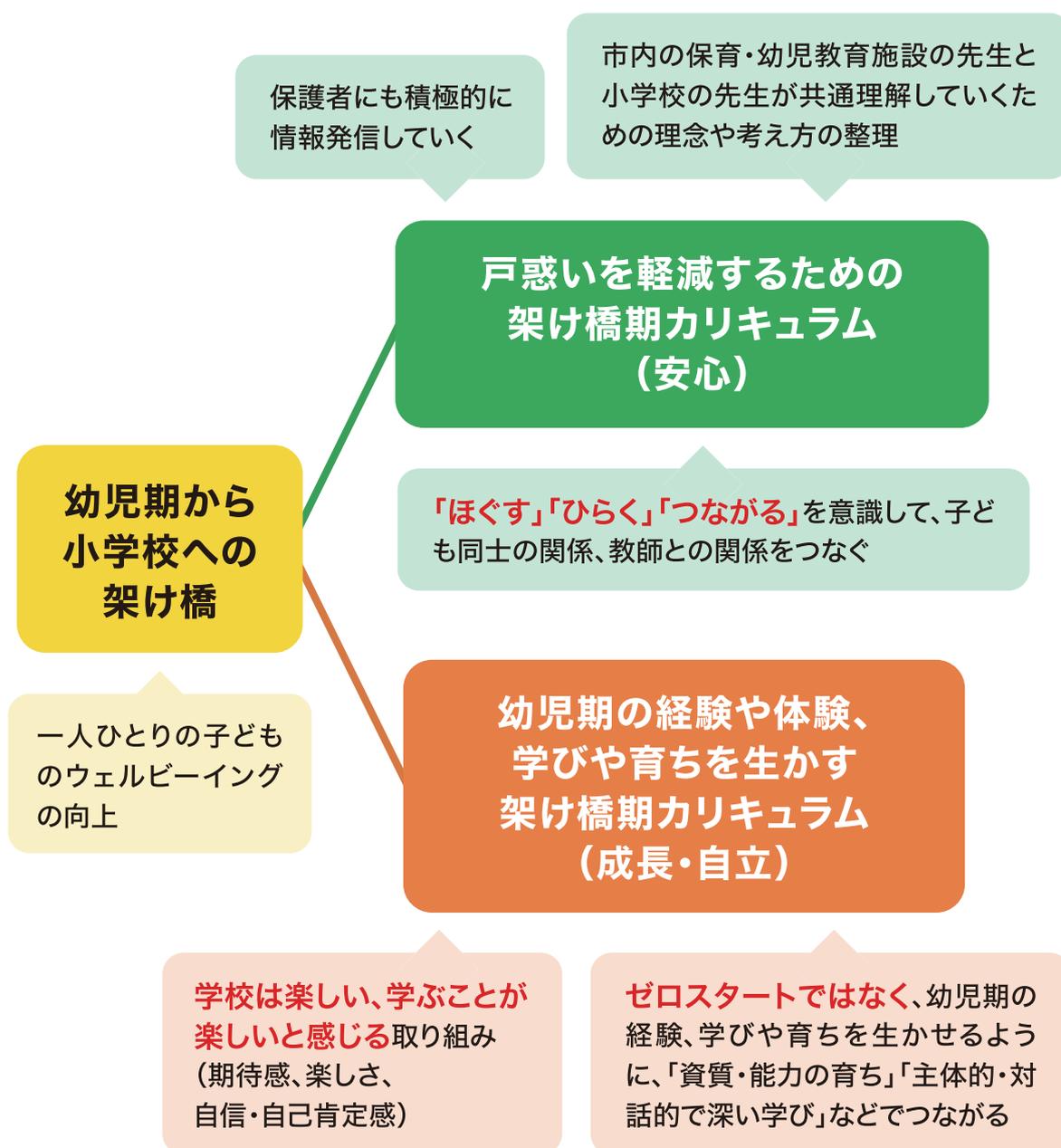
▲1年生の教室

箕面市架け橋期カリキュラムの特徴と意義

大阪総合保育大学 教授 瀧川 光治

1. 箕面市の架け橋期カリキュラムの特徴

箕面市の架け橋期カリキュラムは、さまざまな支援や配慮を必要とする子どもも含めて、一人ひとりの子どもの育ちや経験が、各保育・幼児教育施設やご家庭から市内の小学校へつながり、育ちのバトンを安心してつないでいけるようにと願いを込めて作成されています。幼児期から小学校以降へ一人ひとりの子どもにとってウェルビーイング(幸せな気持ちを感じながら生活している状態)を向上させ、切れ目が生まれないようにするために作成されたものです。



箕面市の架け橋期カリキュラム開発検討会議には、3名の保護者も委員として参加し、保護者の視点から意見を出してもらおうといった特色がありました。

その中で、架け橋期の幼児・児童の保護者の戸惑いや分からなさ、期待感を知り、積極的な情報発信の必要性や情報発信の内容や仕方などについても考えていくことが大切だと感じました。保育・幼児教育センターや教育委員会事務局からの発信だけでなく、市内の各保育・幼児教育施設と各小学校からの発信も大事にしていきたいところです。

2. 架け橋期の2年間で大切にしたいこと

ここで義務教育開始前後の5歳児から小学校1年生の2年間の架け橋期に大切にしたい理念や考えを整理しておきます。

1つは、「はじめの100か月の育ちビジョン」(こども家庭庁)にも示されているように、「子どもの権利や尊厳を尊重する」「安心と挑戦の循環」ということです。保育・幼児教育施設での日々の保育・教育、小学校での日々の教育活動の中では、「子どもの権利」「子どもの主体性(権利主体としての子ども)」を意識して関わることが求められます。そのためにも、「子どもの思いや願いを尊重する」(=子どもの心の声を聴く)といった関わりや機会を積極的につくっていくことが大切です。「安心と挑戦の循環」の視点からは、子どもは安心の基盤があると、いろいろなことを“やってみたい!”と意欲や好奇心が発揮されます。その中でさまざまな経験が積み重なることで、より豊かな育ちにつながっていきます。「やってみたい!」という学びに向かう力は、学習の基盤となるものです。

幼児期はやってみたいという気持ちを発揮しながら、自発的な活動としての遊びを通して育っていくことを大切に、小学校1年生では、その学びに向かう力を引き継いで、「安心・成長・自立の過程」(スタートカリキュラム スタートブック)を意識することが求められます。そのように、「学びに向かう力」をつないでいくことが、1年生当初からの「主体的・対話的で深い学び」にもつながっていきます。

そしてもう1つ大切にしたいのが「子ども一人ひとりの自信や自己肯定感の育ちを支える・つなぐ」ということです。「安心と挑戦の循環」の中で子どもが主体的に活動することを通して、自分で何かを成し遂げて生まれる自信や他者から認められて生まれる自信が生まれてきます。このような日々のささやかな自信の積み重ねが、ありのままの自分を肯定的に捉える「自己肯定感」や、自分も一人の人間として大切にされているという「自己存在感」の育ちにつながってきます。このような育ちを支えることは、小学校以上においても『生徒指導提要』(文部科学省、令和4年改訂)に示されていることと同じです。

そのため、保育・幼児教育施設、小学校だけでなく、家庭でも「子どもの権利や尊厳の尊重」「安心と挑戦の循環」「子ども一人ひとりの自信や自己肯定感の育ちを支える・つなぐ」ということを意識していただきたいと願っています。

3. 認識・捉え方のアップデートを！

幼保小の交流・連携から幼保小の協働による接続へと変化してきている幼稚園・保育所・認定こども園と小学校との連携や接続については、これまでも各自治体で「子ども同士の交流活動」「教職員の交流や情報交換」のみならず、「接続期カリキュラムづくり」などが行われてきました。たとえば、小学校の生活科の授業に、幼児が参加したりするなどの幼児と小学生の交流の機会があったり、地域の小学校に幼児が見学に行き、小学校のことを知る機会をもつなど幼児期の子どもたちが小学校生活を安心して送れるようにしていく取り組みがあります。いわゆる「小1プロブレム」「段差の解消」のための取り組みとして実施されてきましたが、市内の幼稚園・保育所・認定こども園のすべて(公立・私立・民間を問わず)の取り組みになっていなかったのが実情でした。

架け橋プログラムは、小学校との架け橋だけでなく、市内保育・幼児教育施設の「横のつながり」(横の架け橋)もつくっていくことが大切です。文部科学省の「学びや生活の基盤をつくる幼児教育と小学校教育の接続について～幼保小の協働による架け橋期の教育の充実～」という資料によると、「子どもに関わる大人が立場を越えて連携し、架け橋期(義務教育開始前後の5歳児から小学校1年生の2年間)にふさわしい主体的・対話的で深い学びの実現を図り、一人ひとりの多様性に配慮した上ですべての子どもに学びや生活の基盤を育むことをめざすもの」と明記されています。

すなわち、架け橋プログラムとは、小学校と保育・幼児教育施設の協働の取り組みとして接続のためのカリキュラムを作るだけではなく、子ども同士の交流、教職員・保育者の交流、さらに架け橋期に関わる事例集の作成などを通して、学びや生活の基盤を育みながら、幼児期と小学校期をつなぐことを意図したものです。

架け橋期カリキュラムを直接的に活用するのは、箕面市内の各保育・幼児教育施設・小学校の保育現場・学校現場の先生がたです。一人ひとりの子どものウェルビーイングの向上のために、ぜひ育ちのバトンを安心してつないでいけるように、積極的にこのカリキュラムを活用していただくことを願っております。そして、実際に使ってみる中で理念や考え方、実践が深まり、このカリキュラムの改訂やバージョンアップを図っていただきたいと思います。

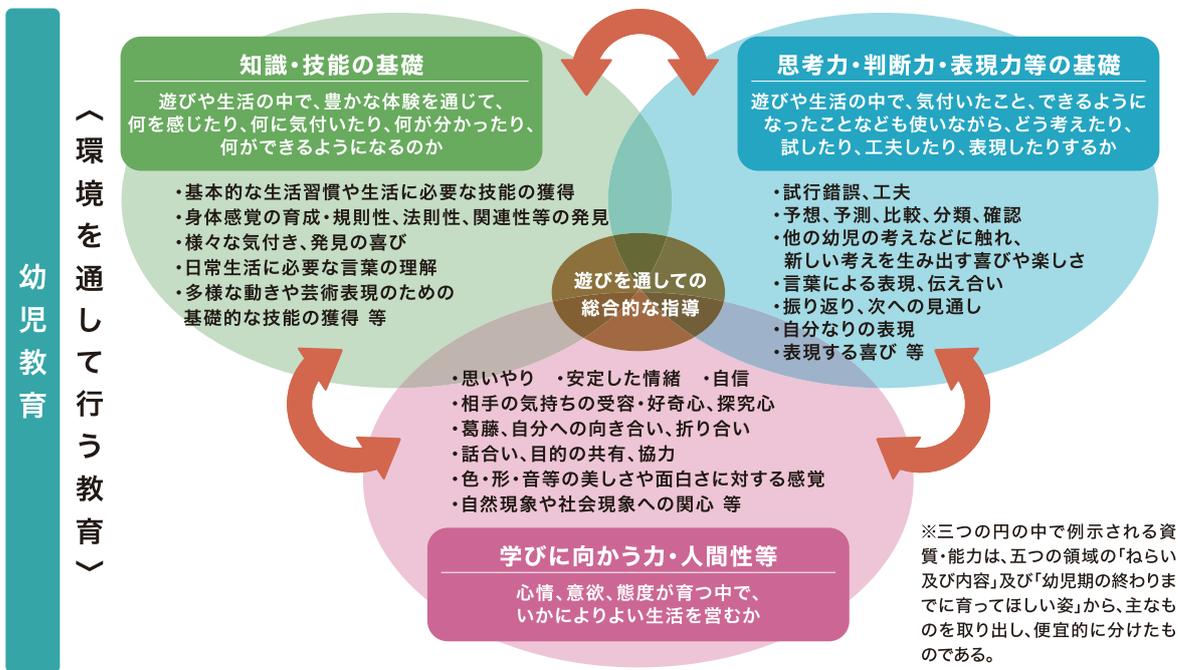
小学校以上

知識・技能

思考力・判断力・
表現力等

学びに向かう力・
人間性等

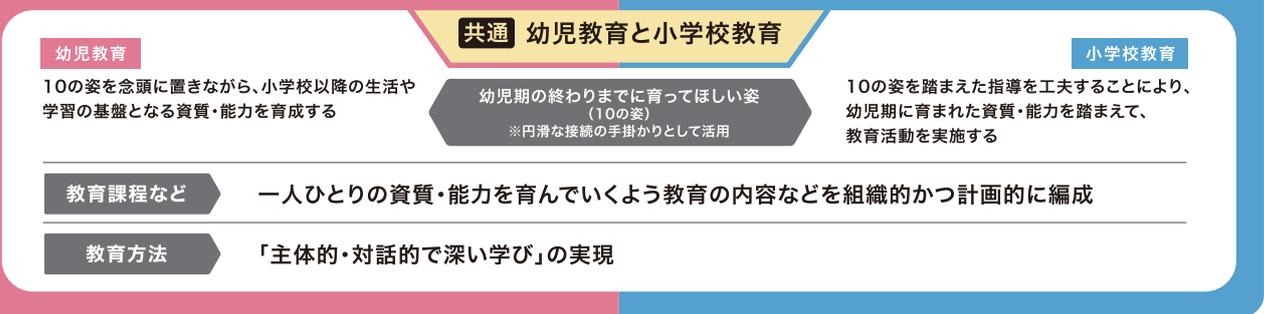
※下に示す資質・能力は例示であり、遊びを通しての総合的な指導を通じて育成される。



参考：文部科学省 幼児教育において育みたい資質・能力の整理 「幼児教育部会における審議のとりまとめ」 2016 P12

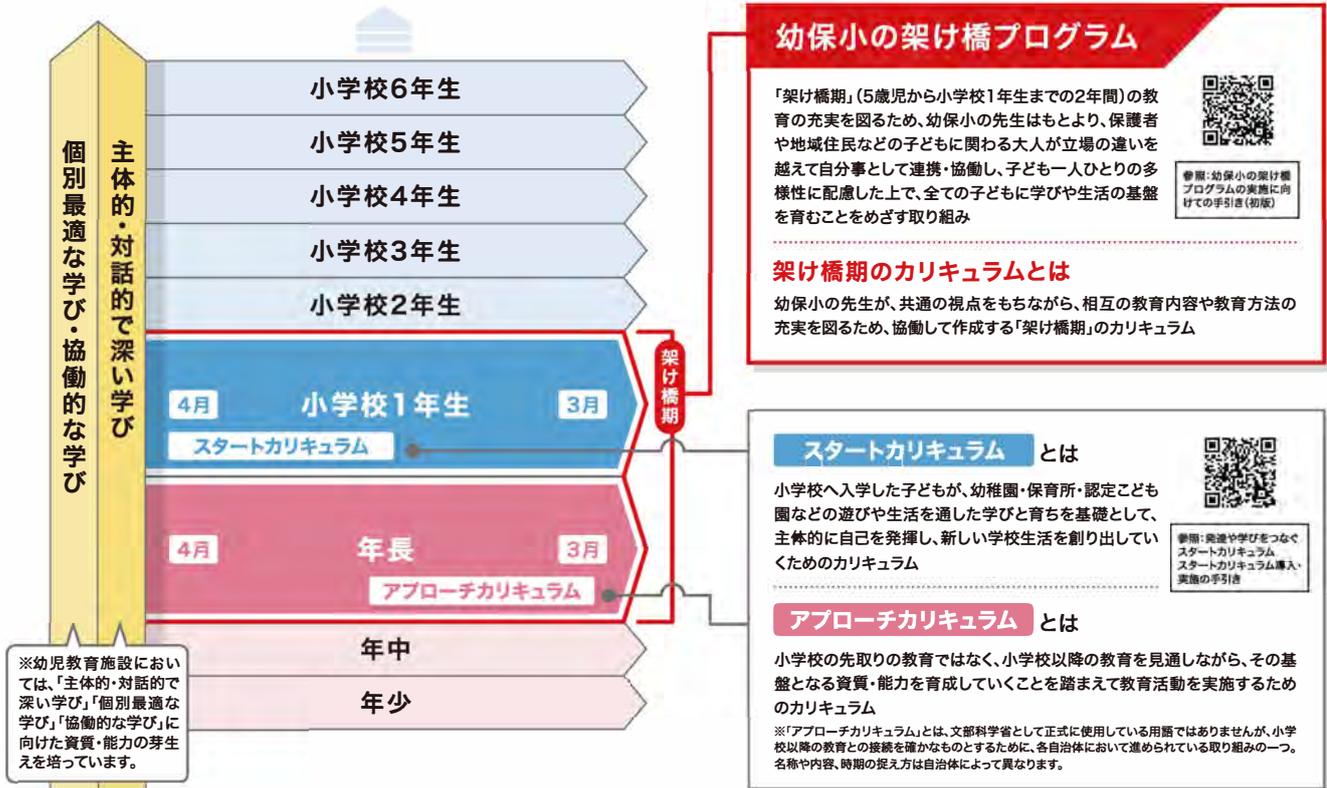
幼児教育と小学校教育の特徴とは？

幼児教育と小学校教育の特徴を、教育課程などや教育方法などの面から見てみましょう。



幼児教育と小学校教育が つながるために何が行われているの？

幼児教育で育まれた資質・能力を小学校以降の教育で更に伸ばしていくために、
子どもたちの将来を見据え、0歳から18歳までの学びの連続性に配慮しながら、
いわゆる「アプローチカリキュラム」や「スタートカリキュラム」「架け橋期のカリキュラム」などにより、
教育内容や教育方法を工夫しています。



参考：文部科学省「幼児教育と小学校教育がつながってどうということ？」

| 文部科学省・子ども家庭庁 | | |
|--|--|---|
|  <p>●幼保小の架け橋プログラム (文部科学省) https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/youchien/1258019_00002.htm</p> |  <p>●遊びを通した学び(文部科学省) https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/youchien/mext_02697.html</p> |  <p>●幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン (はじめの100か月の育ちビジョン) https://www.cfa.go.jp/policies/kodomo_sodachi</p> |
|  <p>●令和の日本型学校教育 https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/079/sonota/1412985_00002.htm</p> |  <p>●今後の幼児教育の教育課程、指導、評価等の在り方に関する有識者検討会 最終報告 https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/189/toushin/mext_01929.html</p> |  <p>●幼稚園教育要領 https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/you/</p> |
|  <p>●保育所保育指針 https://www.mhlw.go.jp/web/t_doc?datald=00010450&dataType=0 &pageNo=1</p> |  <p>●幼保連携型認定こども園教育・保育要領 https://www.mhlw.go.jp/web/t_doc?datald=00010420&dataType=0 &pageNo=1</p> |  <p>●学習指導要領 https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/index.htm</p> |
| 箕面市 | | |
|  <p>●箕面の授業の基本 https://www.city.minoh.lg.jp/edu-center/documents/minoonejyugyouonkihon.pdf</p> |  <p>●箕面市就学前保育・教育カリキュラム https://www.city.minoh.lg.jp/sinfancy/hoikuyoujikyokuiku/syugakumaekarikyuramu.html</p> |  <p>●就学前施設一覧 https://www.city.minoh.lg.jp/infancy/hoikusho/tirann.html</p> |

■ 架け橋期カリキュラム開発検討会議 委員など

(以下敬称略)

| 役割 | 氏名 | 所属機関など | 参加年度 |
|----|--------|--------------------------------------|-------------|
| 会長 | 今中 美穂 | 子ども未来創造局 担当部長 (箕面市教育委員会) | 令和5年度～令和6年度 |
| | 浅井 文彦 | | 令和4年度 |
| 委員 | 佐藤 秀昭 | 箕面市立萱野小学校 校長 | 令和4年度～令和6年度 |
| 委員 | 廣田 尚美 | 箕面市立かやのこども園 園長(※) (箕面市立かやの幼稚園 園長) | 令和4年度～令和6年度 |
| 委員 | 中森 朋子 | 旧箕面市立萱野保育所 所長(※) | 令和4年度～令和5年度 |
| 委員 | 高岡 なつ子 | 旧箕面市立なか幼稚園 園長(※) | 令和4年度～令和5年度 |
| 委員 | 辻 陽子 | 箕面保育園 園長 | 令和4年度～令和6年度 |
| 委員 | 丹澤 直己 | こども園アサンプション国際幼稚園 常任理事 | 令和4年度～令和6年度 |
| 委員 | 貝原 敦 | 保護者 | 令和4年度～令和6年度 |
| 委員 | 浅香 知佳 | 保護者 | 令和4年度～令和6年度 |
| 委員 | 平尾 ゆりか | 保護者 | 令和4年度～令和6年度 |

■ ワーキンググループ

| 氏名 | 所属機関など | 参加年度 |
|--------|------------------------|-------------|
| 川口 久実 | 箕面市立萱野小学校 | 令和4年度 |
| 高橋 恭平 | | 令和4年度 |
| 岐津 夏美 | | 令和4年度～令和6年度 |
| 山形 洋子 | | 令和4年度 |
| 土居 愛実 | | 令和5年度 |
| 奥野 沢杜 | | 令和5年度 |
| 持田 里香 | | 令和5年度～令和6年度 |
| 川端 天一郎 | | 令和6年度 |
| 和田 知美 | | 令和6年度 |
| 片山 登三子 | 箕面市立かやのこども園(※) | 令和5年度～令和6年度 |
| 永井 琴美 | (箕面市立かやの幼稚園・箕面市立萱野保育所) | 令和4年度～令和6年度 |
| 松本 衣世 | 旧箕面市立なか幼稚園(※) | 令和4年度～令和5年度 |
| 筧 美香 | 旧箕面市立萱野保育所(※) | 令和4年度 |
| 山脇 直美 | 箕面保育園 | 令和4年度～令和6年度 |
| 北之坊 鮎実 | こども園アサンプション国際幼稚園 | 令和4年度～令和6年度 |

※令和6年4月1日に、かやの幼稚園・なか幼稚園・萱野保育所は、箕面市立かやのこども園に移行しました。

■ 架け橋コーディネーター(令和4年度～令和6年度)

大阪総合保育大学 児童保育学部 教授 瀧川 光治 氏

■事務局

| 氏名 | 所属機関など | 参加年度 |
|--------|----------------------------------|-------------|
| 銚之原 史樹 | 保育・幼児教育センター | 令和4年度 |
| 大上 和代 | 保育・幼児教育センター | 令和4年度～令和6年度 |
| 三島 新平 | 学校教育室 | 令和5年度 |
| 新井 邦子 | 学校教育室 | 令和6年度 |
| 瀧渦 数馬 | 保育・幼児教育センター | 令和4年度～令和6年度 |
| 日野 英之 | 学校教育室 | 令和5年度～令和6年度 |
| 高岡 なつ子 | 保育・幼児教育センター | 令和6年度 |
| 河村 有紀 | 保育・幼児教育センター | 令和4年度～令和5年度 |
| 足立 裕子 | 保育・幼児教育センター | 令和4年度～令和5年度 |
| 齊藤 奈都子 | 保育・幼児教育センター | 令和5年度～令和6年度 |
| 土井 麻由美 | 保育・幼児教育センター | 令和4年度 |
| 山浦 典子 | 保育・幼児教育センター | 令和4年度 |
| 吉田 涼平 | 保育・幼児教育センター | 令和4年度～令和6年度 |
| 安達 讓 | 保育・幼児教育センター (保育・幼児教育スーパーバイザー) | 令和4年度～令和6年度 |

発行 令和7年(2025年)3月

箕面市教育委員会事務局 子ども未来創造局
保育・幼児教育センター

〒562-0003 大阪府箕面市西小路4-6-1
TEL:072-723-2121(代表) FAX:072-721-9907

印刷物番号
6-17

